

非来館者に向けた ダウンロード学習教材の提供

日本科学未来館 山野 晋平

1. はじめに

日本科学未来館では科学コミュニケーション活動の一環として、予約制のワークショップを開催している。ワークショップは当館の科学コミュニケーターがファシリテーションを行い、様々な参加者同士が話し合いながら進めるが、遠隔地などの教育関係者が主体となって来館せずとも実施できるように、一部のワークショップ資料は無料ダウンロードが可能な学習教材としてホームページ上で提供している。ここでは、ワークショップをはじめとした当館が提供する学習教材の利用状況を報告し、新たに提供を始めるワークショップ教材についてまとめた。また、当館のオンライン展示体験サイトを活用した、教室での授業等において利用できる学習教材も制作したのであわせて紹介する。

2. 既コンテンツとその利用状況

当館では、2016年よりダウンロード学習資料の提供を行ってきたが、2023年11月9日より利用者が申請してすぐダウンロードできるシステムへと変更した。以下では、新システム開始から2024年11月8日までの1年間における利用状況について報告する。

表1 2023年11月9日から
1年間の学習教材利用申請数

| コンテンツタイトル | 申請数 (件) |
|--|------------|
| SDGs 関連教材 「わたしと世界のつながり かるた」 | 74 |
| SDGs ワークショップ 「気候変動から世界を守れ！」 | 55 |
| ワークショップ 「エネルギーの未来を考えよう」 | 16 |
| ワークショップ 「月開発会議へようこそ ～あなたの選択が未来をつくる～」 | 12 |
| ワークショップ 「パーム油ってなあに？ ～私と世界とのつながりを探る～」 | 7 |
| ワークショップ 「もう選べない？未来のお寿司」 | 7 |
| その他 | 15 |
| 合計 | 186 |

1) コンテンツごとの利用申請数

学習教材として提供しているコンテンツをその利用申請数とともに表1に示す。「わたしと世界のつながり かるた」は、かるたを通じて暮らしと資源・生態系とのつながりについて考える教材である。「気候変動から地球を守れ！」は、いくつかの国のリーダーの立場となった参加者が、気候変動の脅威からそれぞれの自国民を守ることを

目標に、議論しながら進行するロールプレイ形式のワークショップである。

2) 利用申請者の所属所在地

学習教材の利用に際して、申請者には所属等の情報入力をお願いしている。申請者の所属を地域ごとに分類したものを図1に示す。当館所在地である東京都は全体の申請数186件の三分の一程度に過ぎず、アクセスのよい隣接県である千葉県・神奈川県・埼玉県と合わせても86件と全体の半分に満たない。このことから、来館を前提としたワークショップなどの学習教材が、来館しづらい遠隔地においても広く活用されているものと考えられる。

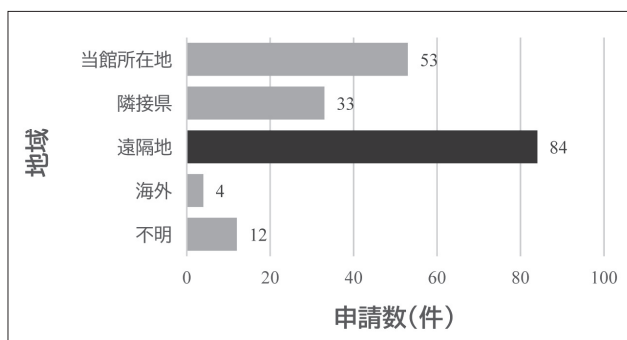


図1 学習教材利用申請者の所属所在地
(当館所在地は東京都である)

3. 新規提供コンテンツ

2024年12月現在、公開間近の2つの新規コンテンツを紹介する。

1) ワークショップ「科学の目で見て描いてみよう ～深海魚のかんさつ&スケッチ～」

このワークショップは、「物をじっくり観察する科学の目」を養うことを目的にメヒカリとよばれる深海魚のスケッチを描くものであり、来館者向けには2024年より実施している。館内実施用の資料から学校等で利用しやすい提供教材とするにあたり、いくつかの工夫を施した。具体的には、①学校授業の時間に合わせたタイムスケジュールの作成、②少数の指導者で多数の学習者を導きやすいようなスライドへの変更、③利用者の状況や目的に応じたアレンジを可能な形での資料提供などである。

2) 学習教材「老化現象の疑似体験から学ぼう」

2023年に新しい常設展示としてオープンした「古いパーク」では、自分自身の老い方を考えるための一環として、老化による目・耳・運動器・脳の変化を疑似体験することができる。また、当館のオンライン展示体験サイト「MIRAI-Bit (ミライビット)」では、インターネット経由で「古いパーク」のコンテンツを一部体験できるようになっている。学校等においてはICT機器で「MIRAI-Bit」を利用することで、老化現象の疑似体験を組み込んだ学習活動を手軽に行えるだろう。そこで、「MIRAI-Bit」と老眼体験ができるプリントを活用した学習展開例を、アレンジ可能なスライドとともに学習教材として提供することにした。

4. おわりに

非来館者向けのダウンロード学習教材は、提供する博物館職員にとってその成果を実感しにくいかもしれない。しかし様々な理由により博物館やその職員と直接関わるのが難しい人々に対しても、博物館の提供する学びを享受できる環境を構築しておくことは重要であるだろう。

